

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために
手を取りあおう

2025-2026年度 国際ロータリーのメッセージ

よいことのために手を取りあおう

UNITE FOR GOOD

写真提供: 関家勇二会員

Rotary



倉敷南ロータリークラブ

国際ロータリー第2690地区第7グループ 創立Jul.7.1961
〒712-8051 倉敷市中畝6丁目6-17

第 3039 例会 R. Song 「四つのテスト」 天候：晴れ No.3039/2026. 5. 29

Guest 認定 NPO 法人 D×P 理事長 今井紀明 様 Visitor 松原様 (岡山西南)

出席 会員数 60 名 (うち出席規定免除者 15 名@2 名①13 名)

5/29 の出席率 59.57% (出席者 28 名、内①2 名)

欠席 安藤、伊藤、河原、栗元、松隈、三宅 (繁)、中川、沼本、鳶田 (晴)、田島、
滝川、和田 (務)、渡辺 (英)、渡辺 (清)、山本 (勲)、山本 (真)、横道、廣川、
齋藤 (満)、各会員 (19 名)

● 浅見会長

- ・ 青少年奉仕月間という事で、認定 NPO 法人 D×P 理事長の今井紀明様にお越しいただき、子供支援の現場と企業と NPO の連携について卓話をお願いしています。
- ・ 会員候補者 日本ゼオン(株)水島工場長 森靖雅 様の賛否用紙をお配りしています。
- ・ (会長の時間) 森岡正博という哲学者が「無痛文明の時代」という本の中で語っている。誰もが人生の中で辛い事や苦しい事に出会わない様に願っている。そもそも文明の進歩とは苦しい事や辛い事に合わない様な社会を作る事であった。今私たちは溢れんばかりの食料や物に囲まれて暮らしており、気持ちが良い事を体験できるようになった。一方で心の底にはぽっかりと空洞が開いていて、誰もがこのことに薄々感じてはいるが目をそらそうとする。そうやって苦しい事、辛い事からどこまでも逃げていく世の中を「無痛文明」と呼ぶ。「無痛文明」は私達を眠らせて大事な問題を考えさせない様にする。引き換えに目の前の苦しみを取り除き快適さと快楽を与える。結果、生きている実感を少しずつ失い、「今生きている」という深い喜びを感じる力を奪われる。人生で一番何をしたかったのか、これを思い出す事に「無痛文明」脱出のカギがある。残る人生の中で探していきたい。

● 幹事報告 (神先副幹事) : ロータリーカード 2026 年 3 月の実績データ。他来信 6 件

● 新理事役員会報告 (奥山会長エレクト、山田次期幹事) : 来年度一般会計、特別会計予算案について説明、承認。OB例会の開催は、次年度も倉敷で行う事が決定。次年度の

理事役員構成は少し委員会を纏めて減らす。議事録の内容はSNSやホームページに掲載しているので、シンプルな形でハガキサイズとし、必要な方は持ち帰り頂く事とした。

- スマイル報告（土井 S.A.A）※紙面の都合上、同じ内容のものは取り纏めております。
- ・浅見会長、土井 SAA、神先副幹事、石田会員：①D×P 理事長今井紀明様の卓話を楽しみにしております。②岡山西南 RC 松原様のご来訪を歓迎いたします。
- ・山口会員：妻の誕生日に素敵なお花をいただき誠に有難うございました。
- ・平松会員：9/30 倉敷カントリー倶楽部でスミセイゴルフコンペを開催します。
- プログラム卓話 「10代の孤立と貧困」 寄付の経営と子供支援の現場報告
認定 NPO 法人 DxP 理事長 今井紀明 様
- ・札幌出身、関西で 17 年目。2012 年に DxP 創業し 15 期目。スタッフはアルバイト含め 46 名。日本に NPO は 5 万法人あるが、寄付で運営している組織はめずらしい。年間 3.8 億円の予算の内 90% が寄付で運営。個人寄付者が 8,000 人以上、法人 200 社以上からご支援を受けている。
- ・10代の孤立という社会問題に取り組んでいる、貧困だけでなく不登校が過去最多。少子化にも関わらず小・中・高生の不登校者数が 40 万人を超えている。親と学校に頼れず、親戚や近所の繋がりも無く居場所がない。行政が動かない中、オンライン相談や食料支援、給付支援、繁華街での支援を行い、そこから仕事の場に繋がったり、海外にチャレンジする場を作っている。
- ・LINE 相談（ユキサキチャット）には 13～25 歳の方が 2 万人以上登録。親に奨学金を取られている、親の介護をしている、兄弟を支えている等の相談が多く、相談者の半分以上が滞納と借金をしている。それを給付により解決し、食料支援を行いアルバイトに繋げ状況を改善する。大学卒業までサポートするケースもある。
- ・繁華街の現実とは LINE 相談とは全然違っている。大人への拒否感や自分で状況の言語化ができず、行き場を失い 集まってきている。グリ下、東横、福岡、札幌、名古屋で同じ現象ができています。グリ下にいる子に対して、最初はテントから始まり今はユースセンターを作り、衣食住が伴わない子の救済をしています。
- ・現在そうした活動に対し民間企業からの支援も増加、大阪市も動き出し住居支援をするようになった。繁華街では犯罪に巻き込まれる場合が多いが、民間から改善していこうという活動により、今では市長と府知事が来てくれグリ下会議ができ、協定を結んだ活動に至っている。東京の東横でも我々の活動を真似て運営しました。民間で動いてきたことが国や行政に波及できた事が大きいと思う。
- ・イラン情勢もあり物価高が顕著。ぜひ皆さんにご支援、寄付の参画を頂きセーフティネットを皆さんと一緒に作っていききたい。

例会プログラム予定：6月5日(金)卓話 ①親睦活動月間「サークル活動紹介」各サークル代表者 ②ショートスピーチ「岡山弁講座」浅見会長 /6月12日(金)卓話 この一年を振り返って 会長、副会長(2名)、SAA、幹事 ※当日ご出席の方